

ウクライナの被災地へ 無事、  
救援物資500キロ 届けました  
「救援・中部」代表 渡辺春夫さんと坂東弘美さん

9月3日、渡辺さんと坂東さんの2人は、同行取材した「日本電波ニュース」の記者、カメラマンと共に、救援活動の道を開くという大きな成果をもって元気に帰ってきました。放射能測定器や使い捨て注射器、粉ミルクなど救援物資を届けるだけでなく、汚染地域での放射能測定、5か所の病院訪問、汚染地域からの移住者訪問のほか、受入れ先のジトミール・ジャーナリスト連盟、『ジトミールスキー・ヴィースニク』新聞社との救援に関する話し合いを行うなど、大変忙しい、しかし充実した2週間のソ連訪問でした。何よりも、『ジトミールスキー・ヴィースニク』新聞社が信頼できる受入れ先であることを、彼等の現地での救援活動や私たちとの話し合いを通して、また私たちへの濃やかな心遣いなどからも確かめることができ、今後の私たちの救援活動がより確実に行えるものと思われ

ます。

<ウクライナ 訪問の行程>

- 8/21 夕 名古屋発
- 8/22 成田出発 モスクワ泊
- 8/23 キエフ着 ジトミール着 ジトミール・ジャーナリスト連盟との会見  
ジトミールスキー・ヴィースニク訪問 救援物資（放射能測定器、ファックス、移住基金10万円）を贈呈
- 8/24 ジトミール サナトリウム訪問、病理学病院、病理学局訪問 救援物資贈呈  
（学術書、使い捨て注射器、バルサム、粉ミルクなど）
- 8/25 ジャーナリスト連盟 州保健大臣 ジトミール・ヴィースニクとの救援についての話し合い、ジトミール地区子供病院訪問
- 8/26 朝 市場へ、移住者の家見学
- 8/27 コーラステン、ナロジチ、チェルノブイリ博物館見学、ナロジチ子供病院訪問、ノーボエシャルロ村、ノーズズエデリッシュユ村、ウージュ川など各所で放射能測定
- 8/28 マーリン新聞社 コルジェさん宅訪問 救援物資の贈呈（粉ミルク、コーン缶、スキムミルク、ミルクキー）

- 8/29 ジトミール子供病院 救援物資贈呈（使い捨て注射器、パングレアチン、リノックス、粉ミルク、ミルクイーなど）、ジトミール・ヴィースニク訪問 記者会見
- 8/30 キエフ着 デパートでオークション用の買い物
- 8/31 「チェルノブイリの子供達」と会見、救援物資贈呈（放射能測定器、ファックス）、キエフ子供病院訪問 救援物資贈呈（使い捨て注射器、ブドウ糖、ガーゼ、包帯、粉ミルク、スキムミルク、コーン缶、ミルクイーなど）
- 9/1 キエフ発 モスクワ泊
- 9/2 モスクワ発
- 9/3 成田着 タ 名古屋着

#### <第1回救援物資>

放射能測定器 2台、ファックス 2台、使い捨て注射器（5ml、20ml）計6000本、滅菌ガーゼ 78箱、包帯 9箱、ブドウ糖（粉末）10kg、パングレアチン（整腸剤）5缶、リノックス（複合ビタミン剤）2ケース、馬油 少々、粉ミルク（8缶入り）10ケース、スキムミルク（250g）400箱、コーン缶（24缶入り）6ケース、ミルクイー 94袋、バルサム（検査用試薬）、放射能に関する学術書 5冊、文献 数点、Tシャツ 数十枚、以上（総計500キロ）

これらの救援物資を、「救援・中部」のメッセージと目録を添えて、『ジトミールスキー・ヴィースニク』新聞社や訪れた病院など5か所に手渡してきました。

あらゆるものが不足していると伝え聞いていましたが、実際に訪問して、医療体制が日本と大きく違っていること、医療現場ではやはり顕微鏡から始まって医療機器類が無いこと、放射線障害に関するデータや資料が無いことからくる問題点など、日本からの医療の専門家の援助が必要と感じられました。

一般の人々の放射能に関する情報も不足していて、持って行った放射能測定器は大変喜ばれ、早速あちこちを測定したり、これで食べ物も測れると勘違いする人もいたり、混乱していました。人々は他からの汚染のない食料など手にはいらず、自分の土地で取れたものを食べているようでした。しかし不安と不信感は大きく、移住も直ぐにはままならないというのが実情のようでした。『ジトミールスキー・ヴィースニク』は移住のための基金を設け、チャリティコンサートやオークションを行ったりして住宅を購入し、子供の多い人から移住させていました。今回「救援・中部」に寄せられた救援金の中からも、10万円（日本円で）を移住基金に託しました。

第1回の救援として持って行った500キロの物資が、ソ連での被害のどれだけの役にたったのかの評価はともかく、今後、日本の市民からウクライナの人々へ、顔の見える、心の通いあった、「救援」という市民レベルでの交流の道が開けたのではないのでしょうか。

# 原発事故の悲惨さを この目でまざまざ

## チェルノブイリ救援から帰国の2人



ジトミール州の病理学病院で医薬品を渡す坂東さん

チェルノブイリ原発事故の被害者のために、医薬品などを携えて訪ソしていたボランティア団体の二人が、三日、帰国した。「チェルノブイリ救援・中部」の渡辺春夫さん(宮城)と静岡は、救援の必要性を改めて強調していた。

# 医療設備が遅れた現地

## 生々しいスライドも上映

# 多くの援助必要

チェルノブイリ  
救援帰国報告会

ソ連・チェルノブイリ原発 引佐町、元静岡大職員、E1  
事故の真相を明らかにする



りまで約百五十人が訪れ会場は熱気ムンムン。チェルノブイリに対する市民の関心の高さを示していた。

このグループは東海三県、静岡、長野各県の主婦や会社員らでつくる団体で、今年四月から講演会などを通して義援金を募ってきた。

二人は先月二十一日、寄せられた義援金などで購入した医療品など四百五十キの物資を持って、ソ連ウクライナ共和国に向かった。在日ソ連大使館が物資の内容証明書を発行してくれたため、アエロフロート機での運送費用は無料ですんだという。

現地では「ジトミールスキー・ピースニック」という週刊誌が、被ばく地や病院を案内してくれた。

救援物資を今後も確実に届ける方法を見つけてくる、というのが目的のひとつだったが、同週刊誌編集局が信頼できることがわかった。さきにジトミール

チェルノブイリ救援 中部  
 < 会計報告 >

収支報告書 (1990.5.10. ~ 1990.9.24)

収入の部

摘要	金額	摘要	金額
団体カンパ 29件 (内訳)	(3,503,458)	おあしす 文庫	15,000
石巻市民の会	10,000	養の会	3,540
チェルノブイリ救援 東京	100,000	チェルノブイリ救援 飛騨	0,000
" " 静岡	50,000	若狭原発を築する京都府民	20,000
" " 浜松	70,000	四国 グループ	10,000
長野で原子力を考える会	100,000	チェルノブイリ救援 岐阜	280,000
伊那谷 いのちがだいじ	58,000	振南村有志	5,000
八百屋 おやおや, R-DANK 本	144,768	カトリック教会 正義平和協議会	50,000
牛乳パックリサイクルの会 更埴	15,000	個人カンパ 176件 (内訳省略)	692,706
反原発ネットワーク 豊橋	256,334	街頭募金	60,000
足助村 かじやさんコンサート	29,000	今池まつり チェルノブイリカンパ	9,650
豊田市 聖心教会	16,903	8/2 社行会会費 収入	47,000
三河 アメーバの会	10,000	9/9 報告会会費 収入	13,400
緒川 ひめぼたるの会	10,000	" 会場カンパ	116,850
全電通 東海地方本部	300,000	" 工産品 オークション 売上げ	80,665
名古屋別院 真宗大谷派	222,570	卵 100個カンパ 売上げ	5,800
放射能を監視する会	300,000	雑 収入	3,400
チェルノブイリ救援基金がま口整	300,000		
原発 いらない石けんの会	26,250		
ニュータウン 食環クラブ	20,000		
いたずラッコ	10,000		
リサイクルグループ*三 中川会	12,093	合 計	3,562,929

寄贈品

チェルノブイリ救援東京 …… ファックス 1台  
 Y 乳業 …… スキムミルク 400箱  
 H …… コーン缶詰 120缶  
 原子力資料情報室 ---- 書籍 3冊他 社会思想社 ---- 文献

支出の部

商 要	金額	摘 要	金額
放射能 測定器 2台	455,775	社行合 会場費	4,500
ファックス 1台	71,500	・ パーティ費	3,800
注射器 10,000本	355,000	・ 講師 兼 旅費 カパ (5名)	50,000
医薬品	134,004	・ 未費 宿泊費 (3名分)	7,400
粉ミルク代	179,034	報告会 会場費	16,000
書籍	9,167	雑 費	500
工産用 太陽電池電卓 20個	13,600		
横断幕 材料代	7,000		
移住基金 (ソ連へ)	100,000		
荷造 送料 (名古屋-成田)	87,912		
写真フィルム	54,000		
ウケ付 訪問 旅費等	924,962		
活動費 (交通費等)	160,400		
印刷費	128,840		
パネル材料代	34,027		
文具代	10,000		
通信費	44,939		
		小 計	285,2360
		次期繰越	710,569
		合 計	3,562,929

上記のとおり報告いたします。

1990. 9. 30.

事務局

### ＜ソ連からのてがみ＞

ソ連での被害の実情がどうなのか、救援をどうおこなったらいいのか、まず情報を入手したくソ連の救援団体はじめ、新聞、雑誌、個人など9か所に手紙を出したのが5月半ばでした。

一番最初に返事が届いたのが7月11日、ウクライナ共和国ジトミール州ジトミール市の週刊新聞社『ジトミールスキー・ヴィースニク』紙、B. ネチボレンコ編集長からでした。返事の内容は、わたしたちの手紙の質問にいいいに答えた誠実なものでした。ジトミール州の被災状況や自分たちの新聞社が被災者救援活動を行っていること、必要な医療器機や医薬品32品のリストも記され、そして日本から私たちの代表を受け入れる事もできるということでした。今回私たちはこの新聞社を訪問し、救援の窓口になってもらいました。

そして『ジトミールスキー・ヴィースニク』紙の読者から救援を訴える手紙、病院から医療援助を要請するものが届き、さらに私たちの手紙がソ連で有数の雑誌『アガニョーク』（1990 NO. 30）に掲載されたことから、チェルノブイリ事故の被害の大きかった現地各所から救援を要請する手紙や電報が「救援・中部」に次々と届いています。9月末で24通にのぼっています。「ソ連平和財団白ロシア支部」、「白ロシア映画人ユニオン」、「ハリコフ赤十字委員会」、「白ロシア・ユネスコクラブ協会」、キエフ「チェルノブイリ同盟」、チェルノブイリ「チェルノブイリ文化センター」、モギリョフ市長、モスクワ「チェルノブイリとアラルの子供達」などの団体のほか母親たちの悲痛な訴えがあります。これらをまとめてありますので、自分たちで救援を始めたいグループや関心のある人がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください。

また、手紙はロシア語、ウクライナ語、英語でかかれていますので、翻訳を引き受けてくださる人を求めています。ご協力をお願いします。

### <今後の課題>

9月4日にソ連のシュワルナゼ外相が来日し、日ソ外相会談での覚書のなかで、『チェルノブイリ原発事故に関する覚書』に、「日ソ間の協力が有益であることを確認」し、「双方の専門家の相互訪問が必要」とし、さらに「事態の克服のために両国の民間団体、組織間で行われている協力の推進のため、可能な協力を行う」と記されています。

#### \* 輸送の問題

私たちの今回のソ連訪問、救援物資の輸送に当たっては、日本の外務省とモスクワの日本大使館の大きな助力があり、またソ連大使館やアエロフロート航空のご協力で500キロの航空貨物運賃が無料となり、無事ウクライナ共和国ジトミール州まで運ぶことができました。この物資の輸送が確実に行えるということが救援活動の前提となります。今後も今回のように運べるように、航空会社、運送会社など関係方面への働きかけが必要です。

#### \* 医療提携の問題

今回の訪問から、ぜひ医療関係者の交流が必要と思われれます。ソ連では日本に対し、広島、長崎の経験があるのだから、と熱い期待を寄せています。体内被爆が問題となっているソ連の原発事故被災者と広島、長崎の原爆被爆者とは異なる点が多くあるようですが、白血病をはじめ各専門医のご意見、ご協力が待たれるところです。

#### \* 医薬品に関する問題

私たちがソ連から入手した医薬品のリストではほとんどが東欧諸国製造のものでしたが、同等のものなら日本製でも良いと言うことですので、医療専門家のご意見のもとで、厚生省、製薬メーカー、薬局などの関係方面への働きかけをしなければなりません。

#### \* 医療機器に関する問題

ソ連からのリストや今回の訪問から、必要とされているのは超音波診断装置、血液分析機、胃カメラや保育器、データ整理のためのコンピューターなどです。これらは200万～1000万もする高価な機器類であり、私たちの力だけでは困難です。厚生省や通産省、医療機器メーカー、病院など医療関係機関への協力の呼び掛けが必要です。

#### \* 汚染のない食料の問題

被災者救済の根本的な方法は、放射能汚染からの移住なのですが、何万人もの人びとの移住となると早急にというわけにはいかなく、その間汚染のない食料の供給が保証されなければなりません。とくに子供達への影響に配慮されなければなりません。乳業メーカー、食品メーカーなどに訴えていくのも方法です。

その他にもいろいろ課題はあるでしょうが、ページ冒頭、日ソ間の覚書にあるように、関係省庁の協力も仰ぎつつ、私たちは市民レベルで人々に広く訴えながら、出来るかぎりの努力はおしまず、今後の救援活動を行っていきたいと考えています。

## 報告会 各地で

9月3日、2週間のソ連訪問から帰った坂東さん、渡辺さんのもとには、各地から報告会の依頼が殺到しています。2人とも旅の疲れを取る暇もなく、スライド写真や日記の整理、マスコミ取材やミニコミからの原稿依頼も加わって多忙を極めています。しかし、スケジュールの調整と体力、気力の続くかぎりどこまででも出掛けて行って、ウクライナで見てきたことを報告し、救援を訴えて回る覚悟でいますので、どうぞご相談ください。

### 9/9 名古屋 (労働文化センター)

150人を越える人々が詰め掛け、スライドを上映しながらのウクライナの実情報告に、クーラーのない会場で汗を拭きふき熱心に聞き入りました。病院で救援物資を手渡したときの様子や子供達の病状、母親の悲しみ、汚染地の村人の声などウクライナの人びとの感情や実態が生々しく伝えられました。また報告の後、ソ連から持ち帰った品物のオークションも行われ、会場カンパ約12万円と合わせた20万円が救援金に入れられました。この名古屋会場を皮切りに、

9/15 豊橋                      9/16 長野県伊那市                      9/17 三重県伊勢市  
9/18 浜松市                      9/19 静岡                      9/23 愛媛県  
9/25 岐阜県恵那市                      9/30 浜松市

での報告会が終り、これからの日程として、

10/6 春日井市                      10/8 岐阜市                      10/9 名古屋市教育館  
10/14 岡崎市                      10/20 宮城県石巻市                      10/21 宮城県仙台市  
10/28 岐阜県高山市                      11/4 知多郡東浦町                      11/10 三重県桑名市  
11/10 長野市                      11/11 長野県須坂市

が決っています。そのほか、いくつかの高校の文化祭でのパネル展や各地のバザール、祭りでのチャリティバザーやパネル展も多数企画されています。

バザール、祭りの日程は

10/6 チェルノブイリ・フェスティバル・チャリティバザー (高蔵寺カトリック教会)  
10/6~7 鎮守の森でドンジャラホイ (名古屋 城山神社)  
10/12~14 白鳥フェスティバル101市民バザール (名古屋 金山)  
10/28 フリーバザール~チェルノブイリの子供達へ (名古屋 久屋公園)  
11/3 知多半島 野祭り (阿久比町 谷性寺)  
12/15 鶴舞ワンダーランド (名古屋)

各地でほかに企画があればお知らせください。みんながんばってるなあと元気が出ます。

なお、豊橋での報告会のビデオがあります。少人数での会合にどうぞご利用ください。

(問い合わせ: 豊橋かきの木屋, 「救援・中部」)

---

救援金/郵便振替 名古屋8-108610 チェルノブイリ救援・中部  
連絡先/愛知県知多郡東浦町緒川笠松46-1 戸村京子 (0562-83-6521)